

共聴施設のデジタル化改修への取り組み

○ 熊本県西原村での取り組み

西原村は熊本市から東へ20キロメートル、阿蘇外輪山の西麓に位置する人口約6000人の村です。村では共聴施設のデジタル化を早期に実現し、村内の情報格差をなくすため、平成19年度地域情報通信基盤整備事業(辺地共聴施設整備事業)の交付金の交付を受け、村内6施設の共聴のうち2施設についてデジタル化対応の改修を行います。



西原村(医王寺地区)の共聴施設



西原村
加藤 義明 村長

【西原村長の談話】

本村の山間部等では、アナログ放送時から個別受信では難しい地域で、共同受信施設を整備していましたが、デジタル化に向けた設備改修のための施設利用者の費用負担軽減が大きな課題でありました。

このような状況のなか、昨年3月に九州総合通信局から当該事業の説明を受け、デジタル化への対応と地域の情報通信格差を生じさせないためにも、本事業に取り組むことといたしました。

これにより、村内の条件不利地域でも地上デジタル放送が受信可能となり、様々な情報サービスの活用ができ、ひいては地域住民の生活向上に寄与することができると期待しております。

* 辺地共聴施設の支援事業については、平成20年度以降も実施しますので、九州総合通信局では今後も説明会等を開催し募集を行うこととしています。